

別記第1号様式（第7関係）

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和6年度 第6回豊島区教育ビジョン検討委員会
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和6年10月4日（金）午後6時00分～午後8時00分
開催場所		豊島区役所 レクチャールーム（本庁舎8階）
議 題		1 議事 ①「幼児教育のあり方検討部会」における検討状況について ②教育大綱及び豊島区基本構想、豊島区基本計画の検討状況を踏まえた新教育ビジョンの基本方針・基本施策（案）について ③新教育ビジョンの進捗を測る指標（案）について 2 その他
配 布 資 料		資料1 今後の検討スケジュール（案） 資料2 「幼児教育のあり方検討部会」における検討状況について 資料3 豊島区教育大綱、豊島区基本計画の検討状況を踏まえた新教育ビジョンの基本方針・基本施策（案）について 資料4 新教育ビジョンの進捗を測る指標（案）について
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
出席者	委員	増淵達夫 藤平敦 福本みちよ 菅谷哲史 小出淳平 松浦和代 山元俊一 守口幸恵 鈴木恭子 齋藤玲子 下村賢一 瀬能理映 蔦宮子 田中真理子 活田啓文 兒玉辰也（敬称略）
	その他	教育長、庶務課長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、 学校施設課長、指導課長、教育センター所長
	事務局	庶務課

審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
庶務課長	<p>皆さんこんばんは。定刻となりましたので、ただいまより第6回豊島区教育ビジョン検討委員会を開催させていただきます。事務局を務めさせていただきます庶務課長の岩間でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日、皆様にはご多用のところ、また遅い時間の開催にも関わらず、本会議へ出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は、M委員、N委員、O委員都合により欠席との連絡をいただいております。またK委員は、本日オンラインでのご参加となります。本日は16名の出席をいただいておりますので、会議の定数を満たしております。</p> <p>議事に入る前に、本日の配布資料について確認をさせていただきます。次第をご覧ください。本日の配付資料でございますが、「資料1 今後の検討スケジュール(案)」、「資料2 「幼児教育のあり方検討部会」における検討状況について」、「資料3 豊島区教育大綱、豊島区基本計画の検討状況を踏まえた新教育ビジョンの基本方針・基本施策(案)について」、「資料4 新教育ビジョンの進捗を測る指標(案)について」、また、「参考資料1 豊島区教育大綱」、「参考資料2 豊島区教育ビジョン2025素案(案)」、「参考資料3 豊島区附属機関設置に関する条例」、「参考資料4 豊島区教育ビジョン検討委員会運営要綱」、「参考資料5 豊島区教育ビジョン検討委員会委員名簿」、「参考資料6 指標設定の基本的な考え方」、本日の配付資料は以上となりますが、資料は皆様お揃いでしょうか。</p> <p>続きまして、審議に入る前に1点ご報告とお詫びがございます。前回の委員会にて配布させていただきました報告資料の、教育に関する意識調査の実施結果についてですが、資料の分析内容に一部誤りがございました。具体的には、机上にお配りした資料の記載の通りでございます。資料の訂正前・訂正後の箇所につきまして青枠で囲んでおりますが、分析作業について、委託していた事業者の方で、他の設問の選択肢と混同し、区の方でも気づくことができなかったことが原因でございます。お詫びをするとともに訂正させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ここから進行を増淵委員長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
増淵委員長	<p>それではよろしくお願いいたします。</p> <p>議事に入る前に、本日の傍聴について事務局から報告をお願いします。</p>
庶務課長	<p>本日は傍聴希望者はございません。よろしくお願いいたします。</p>
増淵委員長	<p>はい、わかりました。では早速議事に入りたいと思います。</p> <p>冒頭、前回開催した検討委員会の会議録について確認したいと思います。まずお手元の会議録について、事務局から説明をお願いします。</p>
庶務課長	<p>以前メールにて委員の皆様にご確認いただきました第4回検討委員会の会議録について、事務局へお寄せいただいた修正点を反映させたものを机上に配布させていただきました。問題なければ、ホームページにて公開したいと思います。</p> <p>また、前回の第5回検討委員会の議事録案もあわせてお配りしております。こちらもこれまで同様、メールでデータをお送りし、これに加除修正をいただく形で、10月16日の木曜日までに事務局へお送りいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>

増渕委員長	<p>会議録について何かございますでしょうか。よろしいですか。それでは、会議録の取り扱いについては確認いたしたいと思います。</p> <p>それでは議事の1、「幼児教育のあり方検討部会」における検討状況について、事務局から説明をお願いします。</p>
庶務課長	<p>議題1①について、資料1をもとに説明</p>
教育施策推進担当課長	<p>議題1①について、資料2をもとに説明</p>
増渕委員長	<p>事務局からの説明が終わりました。資料の1番では、策定スケジュールということで、今日の検討委員会ではこのたたき台を見ながら皆さんからご意見をいただいて、それを幼児教育部会の方で更に検討して、第7回の（教育ビジョン）検討委員会で決めるということですので、今日は意見を出していただくという場かと思えますけれども、資料の1、それから資料の2のところのたたき台、これらについてご意見やご質問があれば見ていきたいと思いますが、いかがでしょうか。はい、I委員。</p>
I委員	<p>教育ビジョンの検討ということで教育施策推進担当課長から色々と（説明）いただいた中で、やはり保幼小の連携というところで、先月、保育園と小学校の先生との研修会をしまして、職員が（研修会に）行ったときに、小学校の先生とも本当に色々と具体的なことをお話して下さって、本当にありがたかったという、こちらの意見も非常に聞いてくださってというところで、非常に実のある研修でしたという報告を受けたのですが、この2年間の保幼小の部分のあり方というところで（検討を）していく中で、やはり学校の先生も今非常に多忙なところもあって、先生たちの問題というのも出ていると思うのですが、保育園・幼稚園の先生たちという中で、本当にこれができるとすごくいいなと思うのですが、具体的にどこまでできるのかな、というところが（あります）。理想はとて素晴らしいのですが、今こういう就労や色々な問題の中で、今後どういうふうに具体的に検討して、これからやっていく中でできるのか、というところが、ビジョンとしての部分で、教育（委員会事務局）の方でどこまで考えているのかなと思いました。やはり支援が必要な子が本当に今現場の保育園等でも多くなっていますので、学校に行ったときに先生たちが非常にご苦労してらっしゃるということも、本当に目に見えてわかっていますので、そこをどういうふうにフォローしたり、また私達がどういうふうにフォローしていったらいいのかなど。その辺りの連携の部分もやはり課題になってくるのかなと思ひまして、このビジョンのお話を聞いて思っていたのですが、その辺りにつきまして、もし何かお話等ありましたらお願いしたいと思います。</p>
教育施策推進担当課長	<p>具体的な中身というところにつきましては、やはり小学校の先生と校長先生ともしっかりとご相談をさせていただいて、役割分担等を決めていかないといけないと思っております。確認したのですが、例えば多い学校ですと、その小学校区で11園あたりですとか、少ないところだと（校区にある園が）3園や2園なのですが、そういったところもありますので、幼児教育センターの方でどこまでを仕切って、あとはどこまでが学校にするかというところは、これからもう少し検討していきたいと考えております。あと特別な支援（が必要）な子というところは、幼児教育部会の方でも実際に私立の保育園の代表ですとか、私立幼稚園の代表の方からも、具体的にどういったことがあると良いのか等のご意見も聞いておりまして、やはり学識の先生等に見てもらってアドバイス等をしてもらうのがいいという意見ですとか、定期的に巡回のような形で回るといいという意見もありましたし、あとは幼児教育アドバイザーとは違うのかもしれないのですが、例えば音楽や文化ですとか、そういったことを子供たちに体験させてあげるような、そ</p>

	<p>ういうものもあるといいとか、様々な意見を今いただいているところです。その中で、なかなか全部を一気にやるのは難しいのかもしれないですけども、まずはどこか（一つでも）やっていくのかということ、これから検討していきたいと考えております。</p>
増淵委員長	<p>よろしいですか。 他いかがでしょうか。はい、よろしくお願いします。</p>
J 委員	<p>今先生が大変だというお話がありましたけど、今日も行っていましたけども、私は今現在、中学校でスクールサポートスタッフとして通っています。そこで出てくるのは、やはり不登校はどんどん増えていきますし、年々改善は全くされてない状況です。もう入学してくるレベルがどんどん落ちているとか、カタカナ（の読み書き）ができないとか、字が書けないとか、あるいは日本語ができない外国人がいたりということがあるので、我々中学校からすると、小学校とどれだけ連携していくかというのはもちろん探っているのですが、私はこの中学校のサポートスタッフをやる前に、豊島区の小学校のスクールサポートもやっていたのですが、これは本当に大変です。新（小学）1年生というのは本当に幼児そのもので、徘徊したりするので、先生が何人いても足りないという状況になっています。そういう意味では、やはり幼児の頃からの教育は根本的にきっちりしないといけないと思っていますのですが、今ここに色々な施策というものが出てきているのですが、どちらかという受け皿としての箱をどうやって作っていくかというようなことが、もうちょっと踏み込んでいただきたいなという（ように思います）。例えば待機児童だとか、あるいは幼児で虐待を受けているとか。正直言って、今はかなり家庭環境が様々になってきて、その影響が子供にあって、それが教育のところに反映されているということはかなりあると思うので、もう少し個々の家庭がどうなっているか、そういうところの施策も考えた方が良くはないかという気がしております。</p>
増淵委員長	<p>家庭のフォローということですけど、何かございますか。</p>
教育施策推進担当課長	<p>家庭のフォローということだと、幼稚園等で抱えている現場の子（ども）たちの情報というのは、先生が毎日見てわかりますので、子どもから感じ取ったところがありましたら、例えばすぐに教育委員会へ上げていただいて、更にそれを庁内の関係する部署にすぐ繋げるような仕組み等についても、すぐ対応できるような形で検討していきたいと考えております。ありがとうございます。</p>
R 委員	<p>今のご意見はその通りだと思います。今は保育園・幼稚園、それから小学校・中学校というように、それぞれ学校ごとに対応している状況ですので。今は教育大綱でも教育ビジョンでも、今後については、幼児期から切れ目のない支援ということで、区立・私立保育園、私立・公立幼稚園での情報共有、また、幼稚園・保育園から小学校に上がる時に両方の（園と）学校も先生も情報共有をして、幼稚園・保育園のお子さんがどういうお子さんなのか双方で情報共有して、受け皿としてもきちんと対応する。小学校から中学校に上がる时候についても、小中連携ということで、それぞれお子さんの状況を互いに情報共有してしっかり対応するという、本当に幼児期から中学校まで切れ目のない支援をしていこうと今検討しておりますので、まさに御指摘を踏まえて、ご家庭の問題もきちんとそれぞれの関係機関で情報共有して、オール豊島で対応していこうというのが、今回の一番大きな目的といたしますか、施策の一番の柱としております。</p>
増淵委員長	<p>ありがとうございます。</p>

<p>E 委員</p>	<p>他いかがでしょうか。はい、お願いします。</p> <p>前回コメントさせていただいたのですが、第三者委員会の中で、やはり地域の方々が入って保育園の現場を見て、色々な討論がある中で解決策を見つけていくということが一つあります。やはり家庭環境をうまく見ていかないとなりません。私達民生委員は家庭の中に入って、この親御さんの状況はどうだろう、子供と親御さんの関係はどうだろう、そして学校に上がる前に何が必要だろう、というところを見ていくのですが、そのような第三者委員会の話し合いをうまくここに反映できるような形ができればいいなと思っています。その辺りについて、どのような流れでこの教育ビジョンに反映できるのか伺いたいと思い、お話をさせていただきました。</p>
<p>増淵委員長 教育施策推進担当課長</p>	<p>今のもご質問ですが、どうでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。まとめられたご意見を我々の方に上げていただいて、こちらに反映するという事は検討していきたいと思っておりますけれども、まずは第三者委員会を持っている課といいますか、担当があると思えますので、担当にご意見やまとめられた声を上げていただいて、そうしたら我々も、そういった声を受けてどこに反映できるか等を検討していきたいと考えております。</p>
<p>R 委員</p>	<p>地域の方や民生児童委員の方々の情報提供は非常に重要で。いま各学校でコミュニティスクールという学校運営協議会をたちあげて、その中に地域の方、民生児童委員の方、町会長等の方も入っていただいて、学校運営に参画していただくというコミュニティスクールを全校で進めていくことにしておりますので、その中でぜひご家庭の子供の状況を、町会長さんや地域の方、民生児童委員の方から情報を伺って、地域で、学校も教育委員会も、区長部局の子ども（関係）の福祉部門も連携して対応できるようにしていきたいと思っております。具体的な施策になりますけれども、コミュニティスクールというのは、学校にとっては地域の声を聞くという一番大きな施策というか仕組み作りとなっておりますので、コミュニティスクールは地域とともにある学校を掲げておりますので、地域の方のご意見はそういうシステムで受けたいと、ぜひ地域の方と一緒に（良い）学校にしていきたいと思っております。</p>
<p>増淵委員長</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>まだ他にあるかと思えますし、今日は小学校の校長先生もいらっしゃらないのですが、次の回もありますので、ぜひこれをご覧いただいて、ご意見をいろんな形で事務局の方に寄せていただいて、その辺りの意見集約はまた後でお知らせがあるかと思えますけれども、見ていただきながらご意見を寄せていただければと思います。この後の案件もあるのでこれについてはここで一段落…はい、お願いします。</p>
<p>A 委員</p>	<p>すみません、ありがとうございます。1点のみです。幼稚園と小学校の接続というところで、読んでいて思ったのですが、皆さんの話を聞いていて思ったのですが、ご存知の通り小学校の学習指導要領に対して、幼稚園は幼稚園教育要領というものがあります。接続というと、どうしても管理職の顔合わせや、年間の最後になると先生同士の顔合わせというものが書いてあったり、あとはやはり子供同士の交流というものがメインになりますが、むしろ幼稚園の先生と小学校低学年の先生が一緒になって、幼稚園教育要領と学習指導要領のすり合わせをするという作業が必要だと思います。幼稚園教育要領は5つ内容があると思いますが、（幼稚園教育要領の）人間関係や言葉（等の内容）が、小学校の学習指導要領のどこに当てはまるのか。言葉で</p>

教育施策推進担当課長	<p>あれば、自分で自分の言いたいことを表現するということが幼稚園（教育要領）の中にも書かれていますが、それは小学校に行ったらどこに当てはまるのか。国語の授業なのか、生活科なのか、もしくは体育なのか。そういうところをすり合わせる作業をすることが先生方の研修にもなると思うし、それがあるから小学校一年生のときの年間行事予定で、ここに遠足（の予定）を持って行って、とか、ここに何を持ってくるなら何のためにやるのか、ということは、幼稚園の頃の間人間関係作りや、そういうことのためにあるというのは、逆のような気がします。他にやること書いてありますが、何のためにやるのか、という作業を先にしないと、その必要性が出てこないと思います。だから、ただ先生同士の顔合わせをするのではなくて、一緒に何か作業をするということ自体が大事なような気がするので、その辺りの視点もぜひお伝えいただけるとありがたく思います。</p> <p>ありがとうございます。先日行われました、先程 I 委員がおっしゃいました研修でも、実際にそういった（幼稚園）教育要領の中身等をやっているところでございます。文部科学省からも、教科ごとの接続をどうやるかという冊子が 4 月に出ていたと思いますので、そういったところも上手く活用しながら、顔合わせにプラスして、根底となる部分もアプローチスタートカリキュラム研修の中で実施していきたいと考えております。</p>
増淵委員長	<p>ありがとうございます。それではこの議題について、いったんここで移らせていただいて、次の議題に進んでいきたいと思っております。</p> <p>続いては議事 2、教育大綱及び豊島区基本構想、豊島区基本計画の検討状況を踏まえた新教育ビジョンの基本方針・基本施策（案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
庶務課長	<p>議題 1 ②について、資料 3 をもとに説明</p>
増淵委員長	<p>事務局からの説明が終わりました。資料 3 についてご質問・ご意見ございましたらお願いします。はい、お願いします。</p>
D 委員	<p>前にお伝えした内容と繰り返しのようになってしまうんですけど、（教育）大綱の方は多分決定したので、ビジョンの方になってしまうんですけど、細かくは恐らく今日のペーパーを見ればもうちょっとわかると思うんですけど、（教育ビジョンに柱が）18 個ありますよね。最初読んだときも思ったんですけど、多分 10 年 20 年ずっと同じことが書いてあるような文言と、今回（教育ビジョンの策定が）1 年早くなって、今おっしゃっていた小中連携のようなものや、不登校や外国人が多い等、この中でも多分今回の（計画期間である）5 年の中で注目するものがあるのだと思っていて、それに星をつけるのか赤字にするのかわからないんですけど、18 個ではなくて、3 つか 5 つかわかりませんが、特にこれというものを太字にするなり、何かした方がわかりやすくなるのではないかと思います。以上です。</p>
増淵委員長	<p>ご意見ということですかね。</p>
D 委員	<p>そうですね。</p>
増淵委員長	<p>はい。他いかがでしょうか。お願いします。</p>
F 委員	<p>3 ページ目の教育ビジョンと豊島区の基本計画の比較表のところ、あるいは 5 ページ目の教育ビジョンと教育大綱のところ、11 番目の教育デジタルトランスフォーメーション、DX の推進と書いてあります。3 ページ目の⑪の左側です。教育ビジョンのところは、右側は「計画的かつ着実な学校改</p>

増淵委員長	<p>築・改修等の実施」と書いてありますが、デジタルトランスフォーメーションというのは、そもそもハード的なことではなくて、ソフトというか、DXでよく言われているのですが、標準化で教育を推進していくというのが一番の目的になっているので、ここはハード的なことよりも、そういうソフト的なところが強調されるべきではないかと思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>はい、お願いします。</p>
R 委員	<p>F 委員ご指摘の通りです。この資料が説明不足で申し訳ございません。この基本計画の「子供の学びと成長を支える教育環境の整備」の中にはハードとソフトと両方入っておりまして、ソフトの方はまさに働き方改革で、DXを活用して教員や環境を支えるというソフトの面も入っておりますので、（比較表の）対応としてはこのところでもよしいかなと思っております。取組方針のところ、「学校改築・改修の実施」しか書いていなかったのもので誤解が生じたと思います。申し訳ありませんでした。</p>
増淵委員長	<p>他いかがでしょうか、よろしいですか。</p> <p>それではいくつか意見が出てきましたけれども、ご意見を踏まえて、事務局の中で御検討いただければと思います。なお、こちらも、もし今日見ていただいてご意見があれば、後ほどお見せいただければと思います。</p> <p>それでは続きまして、議事の3、新教育ビジョンの進捗を測る指標（案）について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議題1③について、資料4をもとに説明</p>
増淵委員長	<p>ありがとうございます。事務局の説明が終わりましたけれども、この資料4について、ご質問・ご意見ございましたらお願いします。はい、どうぞ。</p>
C 委員	<p>説明ありがとうございます。この指標というのは、僕も自分で意見を言った背景もあって、何か（目標を）起こすと言ったときに、それを数値目標というのであれば、目安としてこういうものを活用するというのは非常にいいことだとは思いますが、ただ（調査・アンケート等の）対象といったときに、例えば基本方針3番等で区民意識調査を行うと思うのですが、学校運営協議会等で、よく学校のアンケートのようなものが届きます。自分はPTA会長を務めているので、学校のことはわかっているのですが、ある程度アンケートの内容は答えやすいのですが、一応（PTAの）役（職）を務めている方でも、結構学校が何をしているのかはわからないことがよくあります。このアンケートは何で答えていいのという感じで、結構どの層を対象にするかによって、全くこの（指標の）例も変わってくると思うので、そのアンケートの対象というのが、本当に正しいのかどうなのか、どういう方に聞いたらより反映されるのか、というところの検討はいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。我々もプロジェクトチームで検討する中で、実際に区民意識調査というのは毎年定期的に区の中で行うものなのですが、例えば、本来であれば保護者に聞くような設問があるとすると、それ以外に、18歳から高齢者の方まで満遍なく（質問を）聞くような調査になっているのですが、そもそも調査の母集団がそこで良いのだろうか、というところが悩みとしてはございまして。ただ一方で、やはり定期的に（数値を）測定できないと、そもそも指標を設定しても意味がないというところもありまして、この辺りが我々としても悩みどころでございまして、どうしても本来（アンケートや調査等で答えを）聞きたい人たち以外の意見というか、感想みたいな</p>

	<p>ものが入ってしまうことで、少し（結果が）ずれてしまうところがあるというところは、悩みどころとして事務局のほうでももっているところでございます。</p>
増淵委員長	<p>そうすると、（区民意識調査の）対象は全区民だけれども、それはちょっと変えられないけれども、ということなんでしょうかね。</p>
事務局	<p>そうですね。例えば、調査の中で「保護者」のような（回答者の）属性が特定できるのであれば、クロス集計等もできると思うのですが、一方で、なかなかそういったものを実際にやろうとすると難しいところがあるというところがございます。</p>
庶務課長	<p>今日は事務局の方で、こういった指標はどうでしょうか、というところの案を示させていただいたのですが、また委員の皆様から、こういった手法を使うのはどうかというご意見をいただければ、それを事務局で検討して、次回にこういった指標で測定をしたい、というご提案をさせていただきたいと思っておりますので、その辺りも含めてご意見をいただければと思います。よろしくお願いたします。</p>
増淵委員長	<p>わかりました。そうすると、今日これを委員の方に持ち帰っていただいて検討いただいて、例えばこんなことがあるのではないかというご意見もいただければということですが、そのためにも少しここで意見をいただいて、委員の方々がそれぞれ持ち帰って検討できるようにしたいと思いますけれども、委員の方からご質問やご意見は…はい、どうぞ。</p>
D 委員	<p>質問と意見がいくつかあって、先に質問しようと思ったのですが、今の話への意見のような話になるのですが。この手の資料は、私は野村総合研究所にいて結構こういうことをやっていることがあるのですが、結構指標値というのは難しいんですね。多分おっしゃる通り、定期的（値）を取っていかないといけないから。恐らく、これが正解と今思っても、1年後、2年後と（数値を）とっていくことによって、（やはり）違った、ということもあると思います。でもそれは仕方がないのかなと思っています。ただそうすると、データとして蓄積しないと遡って（分析や検証が）できなくなると思うので、そうなった場合には、手間とのバランスがその都度の判断だと思いますが、分析したデータと差が出た場合は、定常的に取るものは変えずにとっておいて、これを取って（意味がある）かわかったというのは、試しに三つ目をとってみるとか、そういう形をしながらやっただけというのではないかと思います。このデータを定期的にとっておいて正解というのは、今というより多分3年後等（時間が）経ったときに、??の??分析のときに、そういうことでやっていただければというのがまず意見としてありました。</p> <p>あとは、この目標値が0と100になっているところが気になって。意気込みなのかマストなのか気になったのですが、マストだとすると本当ですか、というのが少しあって。100パーセントですとか、残業しても（月の残業時間が）45時間以下を絶対100パーセント達成したら良いと思うのですが、出来るのでしょうかというのが少しあって。意気込みだから、これを目指すんだ、という話ならそうかなと思いつつ、その辺りはどうなのでしょうという質問です。あと、「時間外勤務が月45時間を超える教員の割合」という指標案の「教員」というのは、すみませんちょっとわかっていないのですが、管理職を含めてなのか、全体の平均なのか、という辺りが気になりました。</p> <p>はい、事務局。</p>

<p>増淵委員長 事務局</p>	<p>ご質問があったと思いますので、事務局の方からお答えさせていただきます。</p> <p>まず目標値の方でございますが、事務局の方でもご説明が不十分でした。今回は、まずどういう指標を設定するのかというところを議論させていただきたいと思ひまして、目標値に関しては空欄のところもあるかと思ひます。実際にまだ精査できていないというところが実態でございます、いったん指標そのものをある程度固めさせていただいて、それをもとに目標値を設定させていただきたいと思っております。実際に、今入っている例えば0のようなものを目指しているところもございますので、実際に現実的には不可能というところがあると思ひて、例えば5年後、実際にどのようなレベルまで目指すのかということも含めて、またプロジェクトチームの中で練り上げたいと考えてございます。</p> <p>あともう一つの働き方改革のところでございますが、これは管理職も含めた教員全体ということになります。以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。</p>
<p>増淵委員長 B 委員</p>	<p>とてもお疲れ様でした。非常に難しい課題にチャレンジされているということは非常に理解ができました。その上で申し上げたいのが、既存のものを使うという発想に限界があるのではないかと思ひます。新たな調査をすることでそういう意味ではなくて、今回、豊島区で教育大綱等が新たにできるわけですから、区民調査にしても学校評価にしても、変わって当たり前なのではないかと私は考えます。ですので、新たな調査という意味ではなくて、聞くべき内容が変わってくるのではないかと思ひます。先程、蓄積というお話もありましたけれども、確かに蓄積は必要で、ただ今回、豊島区の中で非常に大きなターニングポイントになると思ひます。ですから、このターニングポイントを逃してしまうと、反対に新たなことが聞きにくくなるというか、調査項目の見直しがしにくくなるのではないかと思ひます。ですので、特に学校にとってはビジョンが変わるので、豊島区の学校評価を存じ上げないのですけれども、学校評価等でどういうことを聞くのかということが、変わって当然なのではないかと私は思ひました。ですので、現段階で、この調査が使えるのではないかという発想まではいいと思ひますけれども、そこから先の調査項目まで果たして設定ができるのかというところを疑問に思ひました。以上です。</p> <p>はい。他にいかがでしょうか。</p>
<p>増淵委員長 A 委員</p>	<p>少しだけすみません、確認というか。これ（指標設定）の目的というか、例えば指標があって、それで目的を決めますよね。目的があって、数値があまり上手くいかなかったら、自分たちの取り組みに何か（問題点）があるのではないかと（考えて）、そこでPDCAを回す、というようなお話だったと思ひます。そうすると、私のイメージだと、年に複数回（調査等）取らないとPDCAを回せないですよ。だから、B委員が言ったように、区民（意識）調査等を使うかどうかは別にして、これ（区民意識調査等）は年に1回ですよ。そうすると、PDCAを回せないですよ。次の年に回すということですよ。だから、その目的というのはもしかしたら、1学期に取っておいて、2学期に（もう一度アンケート等）とって、どれだけ1学期とその（2学期の）数値に対して（差があり）、自分たちの取組はこうした方が良いのではないかと、そうするとこの数値がこういうふうになるのではないかと、と先生方が予測を立てて、それに対して取組をこうしようという。それで、実際の12月、2学期の終わり頃にアンケートをとったら、また（数値が）上がったか下がったかして、もし上がっていたら、この取組で良</p>

	<p>かったんだ、とか、下がっていたら、どこがいけなかったのか、と考えるから PDCA を回すと思うんです。そうでないと、1 回取っただけなら、失敗した、また来年頑張ろう、というような、そもそもあの目標が違っていたのではないか、という（こともあり得る）。そうすると、無駄な 1 年間で過ごした、ということにもなりかねないような気がします。それとも、大枠の大体の方向性を計ることができればいい、というものなのか。その辺りが自分でもどっちなのかよくわからなかったので、質問というか。でも、ここは大事な話だと思います。実効的にすると、やはり先生方の PDCA を回すとか、先生というか色々な大人が PDCA を回さないと（いけない）と思うのですが、いかがですか。</p>
庶務課長	<p>年 2 回や 3 回というのは、実際のところ調査ができるのかというところがございます。ですので、現状としては、調査としては年 1 回の調査が（限界）というところがあるので、やはりそういったところでも全体的に PDCA サイクルを回せるように、もう少しやった方がいいのか、それとも全体の傾向を見る上でこういった調査をした方がいいのか、というところも含めてご意見をいただければと思っているのですが…</p>
A 委員	<p>それはどちらでもいいのですが、そこをはっきりすると、そういう意見が出てくると思います。多分（委員の方々がそれぞれ）色々なイメージを持たれていると思うので。</p>
事務局	<p>事務局の方から補足をさせていただきます。今回、この教育ビジョンという計画の中では、基本方針というかなり上位の層にあるところに紐づく成果指標ということになります。ですので、実際に今度運用を始めるときには、この教育ビジョンの下に、教育委員会で年次計画というものを立てる予定でございます。ですので、この教育ビジョンの中で、こういうことをやっていこうということを定めた後、それを実行に移すために、どういう事業の組み立てをしていくのか、どういう取組を進めていくのか、というところを、また別に年次計画を立てますので、そこで実際に取り組んだ結果、今回設定しようとしている指標がどう上がっていくのか、どういう動きをするのか、というところを測定していくイメージで考えております。そうしますと、結局、成果指標というのは、なかなか結果に表れてくるまでに時間がかかると思っておりますので、年次計画の中で、成果指標ではなく、実際にどのぐらい（各）事業のための事業料を投入したのか、というところを活動指標として測ることになると思いますので、そことの合わせ技といえますか、兼ね合いで、例えば改善すべき点があれば、年次計画の部分で見直していくということになるかと考えております。</p>
A 委員	<p>わかりました。ありがとうございました。</p>
増淵委員長	<p>はい、後は I 委員です。</p>
I 委員	<p>いま調査のことが出たのですけれども、私は学校の方のコミュニティで色々アンケートを取るんですね。各学校でもそういう調査をして、その結果を各学校で発表しているような例があるのですが、例えば保護者や地域、子どもたち（の声）というのが、数字が出ていると思うんです。そういうものをまた統計して、実際に広いところで（調査を）とるという方法も、現場の声も聞こえたり、あと教員の先生達も何パーセントという（数値）のが出ているのは、たしかよく調査で出てくると思うのですが、そういうものを使えないのかなと思って、意見として出させていただきました。</p> <p>ありがとうございます。実際に 1 回限りではなく、やはり定期的に取り</p>

事務局	<p>とができる指標という観点も大事かと思っておりますので、そこを含めてまた検討させていただければと考えております。ありがとうございます。</p>
増淵委員長	<p>後はいかがでしょうか。 私から伺いたいのですが、参考指標が全て2つずつ置いてあるのは、理由は何かありますでしょうか。</p>
事務局	<p>先程ご説明の中でも申し上げたのですが、やはり基本方針というかなり上位のレベルで、なおかつ基本方針の中でもかなり大きな、いくつもの施策がぶら下がっているものですから、それを包括的に1つの指標で測るのはかなり難しいのではないかという話がプロジェクトチームの中でもございまして。とはいえ、あまり成果指標を広げて（数を増やして）しまうと、そもそも測ることがこれでいいのかということも出てきますので、とりあえずいったん目標としては2つまでに絞って、成果指標を設定しようというところで、今回検討するところでございます。</p>
増淵委員長	<p>例えば、基本方針1のところは知育・徳育・体育という3つの領域に関する方針ですけれども、参考指標の方は知育と徳育ですかね。体育に関するものがなくて、果たしてこれでいいのかなということとか。それから知育についても、先程ご指摘がありましたけど、全国学力学習状況調査のいくつかあるアンケートのうちの一つということですので、果たしてそれがこの基本方針1を評価するものになるのかどうか、というところが気になって。この基本方針を達成するための基本施策はいくつかあるわけですから、それをどう評価して、全体としてどうまとめていくのかという、その辺りの組み立て方を少し整理しないと、評価にならないかなと思います。</p> <p>それから、漠然とした評価だと印象評価になって、印象評価だと、何をどう改善すればいいのかということの参考にならず、まさに PDCA ができなくなってしまうと思うので、その辺りは拝見しながら気になったところなので、意見として言わせていただきました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。実は、ここも事務局ですごく悩んだところございまして、こういう表現がいいのか（わかりませんが）風が吹くと桶屋が儲かる（というように）、要は、こういうことを積み重ねていくと、因果関係としてそういうことが起きてくる、というストーリーを考えて（指標を設定しました）。例えば今回の「知」「徳」「体」のところでも申し上げると、そういったもの（「知」「徳」「体」）が、この基本施策を積み上げていくとこういうことになるよね、という（ような）。ストーリーの先で、それ（基本施策の積み重ね）がこういうこと（成果指標）になるよね、というところが、なかなかプロジェクトチームの方でも思い当たらずで、一応、教科書的に成果指標を考えていこうとしたのですが、「知」「徳」「体」の部分が、3つ施策が進んでいくとこういうことになるはずだ、というところがなかなか思い当たらなかったというところがございまして、今回お示したのは少し中途半端な状態になっているというのが現状でございます。</p>
増淵委員長	<p>ありがとうございます。他ご意見やご質問いかがですか。大丈夫ですか。様々な意見が出てきましたので、ぜひそれぞれ委員の方に持ち帰っていただいて、じっくり見ていただきながら、例えばこんなふうにしたらいいのではないか、等の建設的なご意見をいただくとありがたいと思います。それでは議事の3については以上とさせていただきます。</p> <p>本日の議事は以上ということになるかと思いますので、事務局の方から連絡事項があればお願いします。</p> <p>ありがとうございます。本日も活発なご意見いただきましてありがとうございます。</p>

事務局	<p>ございました。</p> <p>先程ご議論いただきました幼児教育検討部会の件につきましては、事務局より検討部会の方にお伝えします。次回の検討委員会で、検討部会での検討結果を正式にご報告させていただき、ご承認をいただけるかどうかのご判断をいただきたいと思いますと考えてございます。</p> <p>また、先程スケジュールのご説明の際にも申し上げましたが、(次回の)検討部会は(次回の)検討委員会の前日となります。ですので、事前にお送りする資料は、その時点での見込みということになりますので、あらかじめご了解をいただければと存じます。</p> <p>また、本日ご審議をいただいた内容につきまして、なかなかご発言をいただくことができなかったところ、あるいは、資料をなかなか読み込めなかったところもあるかと存じますので、これまでと同様、ご意見をいただくための様式をメールで各委員の皆様にお送りさせていただきます。</p> <p>大変お忙しい中恐縮でございますが、10月13日の日曜日までに、事務局にメールでお送りいただければと考えてございます。様式とその締め切りについては、メールで改めて各委員の皆様にご連絡させていただきます。事務局からは以上でございます。</p>
増淵委員長	<p>確認ですけれども、議事録の確認は10月16日の木曜日まで、今の意見等については10月13日まで。締め切りが2つあるということで…</p>
事務局	<p>申し訳ございません。よろしく願いいたします。</p>
増淵委員長	<p>はい、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは以上をもちまして、第6回教育ビジョン検討委員会を閉会いたしたいと思います。どうもありがとうございました。</p>
<p>—閉会—</p>	